

保護者の皆さまへ

令和元年11月15日
(2019年)

吹田市立岸部第一小学校
校長 三宅 友子

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は国語と算数の調査が行われました。しかし本調査で測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語《概要》

- 正答率の分布は、全14問中正答数6問(19.4%)の値が一番高く、次いで12問(16.7%)、4問(11.1%)となっている。
- 平均正答率は、全国平均値(63.8%)を下回っている。(本校54%)
- 漢字を文の中で正しく使う問題では、全国を上回った部分があったが、後半になるにつれて文章記述において、無解答率が高くなる傾向が見られた。

(2) 算数《概要》

- 正答率の分布は、全14問中正答数10問(19.4%)の値が一番高く、次いで6問(16.7%)、5問(13.9%)となっている。
- 平均正答率は、全国平均値(66.6%)をやや下回っている。(本校60%)
- 合同な図形の選択と記述式の問題では、正答率が全国を上回った。
- 文章記述において、全国平均値と比べて無解答率が高かった。

(3) 国語 《各領域における指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

「質問の意図を捉えること」では、75%の児童が正答していたが、「話の展開に沿って質問すること」や「インタビューの目的を捉え、自分の考えをまとめる」(記述式)においては、正答率が全国平均を下回った。

「話すこと・聞くこと」において、お互いの考えの共通点や相違点を整理しながら要点を伝えたり、聞いたりする力をつけたい。そのために、話し合い活動では、役割分担をしたり、自分の立場を明確にしたり、話し合いのモデルを提示することで、分かりやすく整理された話し合いができるように授業に取り入れていく。

書くこと

「自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」(記述式)では、大阪府の平均を上回ったが、図表グラフを用いた効果や工夫についての問題では課題が見られた。

「書くこと」では、目的や意図に応じ、必要な内容を整理し、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、必要な内容を整理して(情報を取捨選択して)、自分の考えをまとめることができるようにしていく。そのために、物語や説明文、作文指導においても「思考スキル」「思考ツール」の活用などで文の構成を整理しながら学ぶ機会を保障する。

読むこと

「読むこと」の領域に関する問題では、70%を超える正答率であった。特に「自分の考えを明確にしながら読む」(記述式)において、大阪府の平均を上回る結果となった。

「読むこと」では、物語や説明文などの学習において、自分の考えや意見を書くだけでなく、文章の構成や型を提示しながら、手紙や日記においても自分の考えをまとめられるように指導を進める。また、物語や説明文の学習を行うときに、並行読書をすることで様々な本にふれる機会を増やしていき、読書活動を推進する取り組みを引き続き行う。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

「伝統的な言語文化」の領域では、漢字の正答率が全国の平均を上回ることができたが、「同音異義語」や「文と文をつなぐ接続語の使い方」、「ことわざを自分の表現に用いる」ことに関しては全国平均に比べて正答率が低い結果となった。

「伝統的な言語文化」では、新出漢字の指導において字形や筆順に注意しながら、漢字の持つ意味や成り立ちを理解できるように指導を進める。ノートや日記や作文においても漢字が文章の中で正しく使うことができるように指導する。また、接続語やことわざについても文章を書く時や日常生活において活用していけるように引き続き指導を行う。

結果より

今後、国語科を中心とした学習において「伝え合い活動」の授業展開に進んで取り組み、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べたり、目的に応じた質問をしたりする力を育む。そして、伝え合い活動を通して、相手からの情報と自分の考えを関係づけながら文章にまとめたり、自分の考えを深めたりする活動につなげる。日々の学習や家庭学習(アップリント)においても、最後まで問題に取り組む習慣を身につけさせていきたい。

（４）算数 《各領域における指導改善のポイント》

数と計算

混合計算や式の意味理解など応用力を必要とするものは、まだまだ努力を要する結果となった。計算式を基に計算の仕方を書くなどの記述式問題については、正答率が16.7%と低く、全国値を大きく下回る結果となった。そして、無回答率が非常に高く、正答率と同じ16.7%だった。算数において基礎となる、四則計算についてはしっかりと身につけさせなければならない。四則計算については、今まで通り継続して反復練習の取り組みを実施するとともに、混合計算を追加するなどの工夫が必要になってくる。記述式については、日々の授業でも計算だけでなく問題の意味や計算の仕方について説明ができるような機会を増やしていく。

量と測定

本領域は、他に比べて平均正答率が低く全国値を大きく下回っている。面積の求め方を記述式で説明する問題に対しては、全国値の正答率を上回ったが、無回答率が16.7%と高かった。また、単位量あたりの大きさを基に求め方と答え方を記述し、その結果から判断してさらに答える問題は、無回答はなかったものの正答率は36.1%と低かった。

図形の面積を既習の求積公式を活用して求めたり、求め方について説明したりすることができるように指導していく必要がある。また、答えを出すことはできるが、その過程を論理的に説明したり、立式の理由を考えたりすることに課題があるため、単に公式や解法を覚えるのではなく、その公式を作ったり、解法を考えたりする過程を大切にしていきたい。そのため、思考の手掛かりとなるキーワードや公式を「解決アイテム」として掲示して使えるようにするなど、授業や学習環境を工夫している。問題における図やグラフが表しているものや、その関係を理解することが難しいと思われるため、日常的に接する物体や量をテーマとした授業を展開し、グラフや図の読み取り、単位量あたりの考えを身近な問題としてとらえることができるように指導を行う。

図形

今回のテストは66.7%の正答率で、全国値を上回る結果であった。しかし形や名前を習得できていても、裏返したり、同じ長さの辺どうしを合わせたり、いろいろな形を作ることがイメージすることに課題が見られた。

図形領域においては多角的に図形を捉えることができる力が求められる。教材を実際に手に取って考えるなど、体験的な活動を通して理解する力をつけていくことが大切である。授業では体験的な活動ができる機会を設け、日常において平面図形や立体図形をより意識することで図形をイメージする際の手立てとし、より一層の理解につながるようにする。

数量関係

グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題では、全国値を下回る結果となったもの、94.4%と高い正答率となった。また、目的に適した伴って変わる二つの数量を見出すことができる問題では、わずかながら全国値を上回ることができた。しかし、他の領域と複合的に絡み合う問題では正答率は低く、複数の情報を整理して問題を解くことに課題があると言える。そのため、問題場面を具体的にイメージして、場面、図、式を関連付ける活動を低学年から系統立てて取り入れてきたこれまでの取り組みを、今後も継続して行っていく。

結果より

問題を解決するために、自分なりの言葉で解き方をまとめたり、問題解決に必要な文や図を選んだり、自分で文や図に表す学習を授業で積み重ねていく。

また「岸一スタンダード」や「解決アイテム」など6年間を通して全校統一した授業ルールによる指導で、基礎基本を定着させる取り組みを継続する。さらに、児童が問題を自己解決する時間を確保し、難しい問題に対しても「伝え合い活動」を通して積極的に解決する力をつけるため、「思考スキル」や「思考ツール」も活用し、考えをまとめたり、表現したりする機会も増やしていく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

就寝時間の質問に対して約20%の児童が就寝時間にばらつきがあることがわかった。生活リズムが安定しないのは健康や心理状態に悪影響を及ぼすだけでなく、集中して学習する状態を作りにくくするため、学力にも影響すると言われている。学校では、保健の授業を中心に規則正しい生活習慣の大切さについて引き続き学習を進めていきたい。

「授業以外に普段どれくらい勉強しますか。」の項目に対して学校の授業以外（家庭や学習塾等含む）で平日1日当たりの学習時間が1時間未満の児童が半数に上り、全国より16%多い。授業以外での学習時間が短いことが、基礎学力の定着を難しくしていると一因と推察できる。宿題の工夫や、今も行っているアップリントや自学ノートの取り組みを充実させることで、家庭で机に向かう習慣をつけることにつなげたい。

「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目に対して、全国よりも約20%下回っている。セルフエスティームの取り組みや児童会活動などでの異学年交流などの取り組みを継続していく。また、「自分や友達の素敵などところを見つけ伝え合おう」という生活目標を設定し、学級指導や集会等で繰り返し取り組むことで、自己肯定感を高めていく。

「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目に対しては、約30%の児童が夢や目標が明確ではないことがわかった。総合学習や道徳、出前授業を通して、様々な生き方にふれる機会をつくりキャリア教育を推進していく。

「国語や算数の勉強は好きですか。」の項目に対しては、全国よりもやや上回る結果となった。今後も児童の学習意欲を引き出していくために「好き・わかる・できる」につながる授業内容の工夫・改善を進めていく。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、「基礎学力の定着」に目標をしばり、放課後の学力保障「岸一タイム」や5時間目の短時間反復学習「ウルトラタイム」、家庭学習の「アップリント」等を継続実施しています。今後も各学年の実態に応じた課題プリントを作成し、効果的に基礎学力が定着するよう内容も精査してまいります。全教科で「思考ツール」「思考スキル」を活用し、伝え合う授業に取り組みます。算数科では少人数によるきめ細やかな指導や習熟度別指導を今後も進めます。また、生活習慣や学習環境等の結果を踏まえ、家庭学習の習慣化を図るため、生活リズムを整えるとともに、テレビやゲームの時間、スマホ等使用などのルールをお子様と約束されることをお願いいたします。今後もアップリントや家読などの家庭学習の定着に向けた取り組みにご協力をお願いいたします。